



ハードの強さにソフトの知性を 加えて次の時代へ



写真提供：JAXA

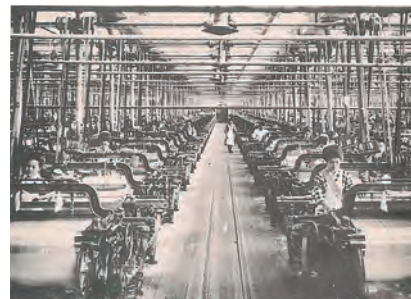


写真提供：JR 東海

モノづくり王国・ 愛知を支える 産業の力



写真提供：
大山市教育委員会



東洋紡績知多工場(旧知多紡績)(昭和10年代)
『東洋紡績知多工場写真報』とこなめ陶の森所蔵

愛知県の製造品出荷額は、48年連続で日本一。イノベーションに挑み続けた先人たちが築き上げた日本の産業首都・日本一のモノづくり産業の集積地として、長年にわたり日本経済を牽引するとともに、その産業集積が地域経済に豊かさをもたらしてきました。

古くは、窯業、繊維産業に始まり、動力織機を源流として、現在の基幹産業である自動車産業が発展してきました。さらに、自動車産業とともに日本一の産業集積を誇り、航空機やロケットを製造する航空宇宙産業、ロボットや工作機械産業から伝統的な地場産業まで、多様なモノづくりが地域経済を支えています。

愛知県は世界一の自動車産業の集積地として発展を遂げてきましたが、自動車産業を取り巻く環境は、「100年に一度の大変革期」とされ、電動化や自動運転といった技術革新の渦中にあります。

愛知の自動車産業が日本経済のけん引役として一層発展していくためには、これまで培ったモノづくりの力にデジタル技術を取り込むことで、新たな価値を創出するモビリティ産業へと変革していくことが必要です。そのためには従来の自動車産業のみならず、多様な企業や関係機関との連携を図り、様々な角度から次なる一手を打つことが求められています。

また、自動車産業の変革に加え、航空宇宙産業やロボット産業、AIとロボティクスを組み合わせたフィジカルAIやデジタル関連産業を始めとする高付加価値な第三次産業といった、これまでのモノづくりの強みを生かせる分野や、今後、大幅な市場拡大が見込まれる分野についても一層の振興を図ることが必要です。



©Prodrone

©SkyDrive

STATION Aiが「モノづくり」と「スタートアップ」をつなぐ

こうした産業構造の変化に対応するため愛知県は、世界有数のモノづくり産業の集積とスタートアップの革新的な技術やビジネスモデルとを掛け合わせた、モノづくり融合型のスタートアップ・エコシステムの形成を目指すSTATION Aiプロジェクトを推進しています。その中核的な拠点が、2024年10月にオープンした日本最大のスタートアップ支援拠点「STATION Ai」です。国内外のスタートアップや事業会社、大学等約1100社が集積するSTATION Aiでは、月平均100件を超えるイベント開催等を通じて、多様な人材が交流する環境を提供しています。また、STATION Aiプロジェクトでは、起業家の創出・育成、スタートアップの資金調達や、海外展開を始めた成長支援、事業会社とスタートアップとのオープンイノベーション支援など、イノベーションの創出に必要なあらゆる取組を行っています。さらには、愛知県と世界

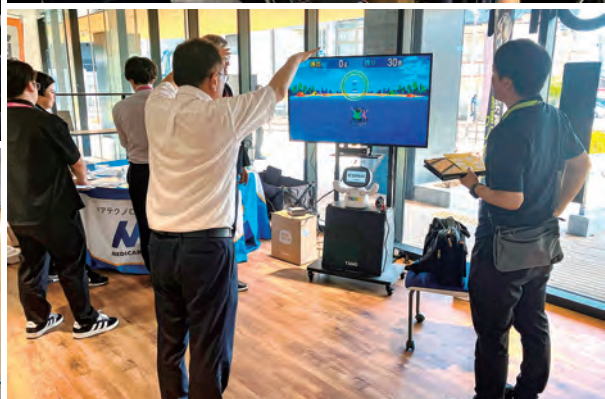
トップレベルの大学やスタートアップ支援機関等との連携により、世界最高水準のスタートアップ成長支援や人材育成プログラムの提供に加え、海外スタートアップやグローバル人材との交流も促進しています。

こうした活動を通じて、愛知県は、STATION Aiを中核に日本のイノベーションを牽引する国際的なイノベーションハブを形成しています。



STATION Ai は、地上7階建て、延床面積約 23,600㎡ の規模を誇り、オフィススペース、テックラボ、イベントスペース、宿泊施設、託児施設、カフェ・レストラン、そして愛知県にゆかりのある企業家等の業績を紹介するあいち創業館等が備えられているほか、ロボットフレンドリーな施設設計、スタートアップのプロダクトを活用した空間設計等によりイノベーション創出に最適な環境を提供します。





日々共創が生まれる場所へ

日本最大のスタートアップ支援拠点であり、スタートアップと事業会社等とのオープンイノベーションを推進するSTATION Aiでは、共創とイノベーションを生み出し続けています。

700社を超える国内外のスタートアップと約390社の事業会社や大学等の多様なプレーヤー（2026年10月時点が、ワルーフの下に集い、テーマ毎に会員同士が支援し合うコミュニティ「ギルド」やオフィスアワー、ピッチやマッチングイベントを始めとした様々な活動により、新たな挑戦やビジネスモデル、分野や国境を超えたグローバルなセレンディピティ（予期せぬ価値ある出会い）による新たな連携などが日々生まれています。

さらに、STATION Aiを中核とする愛知独自のイノベーション・エコシステムは、県内や国内に留まることなく、世界のスタートアップや大学、支援機関、国際市場等とつながるグローバルなエコシステムへと進化を続けています。



世界が注目する愛知モデル

大村知事 × ジャック・アタリ特別対談



2024年9月に、愛知県の大村知事がフランスに渡航し、STATION Fとの連携を始めとした愛知県の取組や世界の経済動向などについて、ジャック・アタリ氏と意見交換を行いました。その際に、アタリ氏が、愛知県の推進するスタートアップ戦略（Action Startup 戦略）やSTATION AIについて大変高い関心を示されたことをきっかけに、アタリ氏に「愛知県イノベーションアドバイザー」に就任いただくことになりました。アタリ氏は、イノベーションアドバイザーの活動として、2025年3月から12月にかけて大村知事と4回の対談を行いました。特に、3回目の対談は、アタリ氏が来日され、STATION AIにおいて、多くの聴衆を前に対談を行いました。さらに、2026年1月のTechGALA Japan 2026では、元ウィントン・ポスト編集長であるマークス・ブラウクリ氏をモデレーターとして、アタリ氏による特別講演を行いました。本書では、アタリ氏と大村知事との4回にわたる対談とTechGALA Japan 2026におけるアタリ氏の特別講演の全内容の掲載を通じて、世界や日本、そして愛知の未来に向けたアタリ氏のメッセージと愛知県のイノベーション創出の取組について紹介します。



地球の未来を拓く テクノロジーの祭典 TechGALA Japan

世界における最先端のモノづくりイノベーションの中心地であり、地球との共生を目指して先進的な取組に邁進する愛知。TechGALA Japanは、革新的な技術を生かした持続可能な未来を築くため、スタートアップ、事業会社、投資家等、世界中から、現在の社会をリードする各分野のプロフェッショナル達が一堂に会し、世界的なネットワークや新たな連携を創出するグローバルイベントとして2025年2月から開催しています。TechGALA Japanは、「愛知から世界へと接続するイノベーションのプラットフォーム」として、パネルディスカッション、ピッチコンテスト、展示、商談会やネットワーキングイベントなど、彩り豊かなプログラムを展開し、新たなビジネスへとつながる出会いを創出することで、世界とシームレスにつながるエコシステムの形成を目指しています。





写真提供：中日新聞社

Hideaki Ohmura

愛知県知事

大村 秀章

愛

知県は、日本経済を牽引する「モノづくり王国」として、自動車、航空宇宙、ロボットを始めとする世界有数の産業集積を形成し、我が国の成長を支えてまいりました。一方で私たちは、人口減少や少子高齢化、気候変動、地政学リスクの高まりを始めとした国内や世界規模で顕在化する様々な課題に直面する中、AIに代表されるデジタル技術が飛躍的な進化を続けることにより、今、まさに、社会や経済の在り方そのものが大きく変わる「歴史的な転換期」の真只中にあります。

こうした時代だからこそ、従来の成功体験に安住することなく、新たな価値を生み出す「イノベーション」が必要です。そして、その原動力となるのが、多様な人材、多様な価値観を認め合い、多様な挑戦ができる「ダイバーシティ」であると私は考えています。

愛知県は2018年に全国に先駆けて「Aichi-Startup 戦略」を策定し、スタートアップ・エコシステムの形成に取り組んできました。愛知県が目指しているのは、国内外の様々な関係者が集い、知識や技術を結び付けてイノベーション・エコシステムを構築することです。

その中核施設として、2024年10月には日本最大のスタートアップ支援拠点「STATION Ai」を開業しました。STATION Aiには、国内外

のスタートアップや既存企業、大学、金融機関、行政など、1000社を超える多様なプレーヤーが集い、日々共創が生まれています。

こうした取組をさらに発展させるため、海外連携の強化などに向けて私が2024年にフランスに渡航した際、フランスの経済学者であり現代を代表する知の巨人として世界的に知られるジャンク・アタリ氏にお会いする機会を得ることができました。そこで、アタリ氏に愛知県のイノベーション施策について紹介したところ、大変強い関心を示していただき、また、私自身もアタリ氏の唱える「命の経済」に深く感銘を受けたことが、愛知県イノベーション・アドバイザー委嘱につながりました。アタリ氏は、フランス大統領特別補佐官や欧州復興開発銀行初代総裁を歴任するとともに、長年にわたり、国家や企業に対して未来社会のあり方を提言しています。とりわけ、人類の未来を支える産業や活動を重視する「命の経済」という考え方は、持続可能な社会の実現を目指す愛知県の方向性と深く共鳴するものです。

本冊子に収録した4回の対談とTechGALA Japanでの特別セミナーでは、スタートアップ施策の方向性、グローバル化がもたらす地球規模の課題や愛知県の課題、イノベーション創出による愛知県の将来像、当地域の持続可能な成長、激動の時代におけるイノベーションのあり方など、幅広いテーマについて議論を重ねてきました。

その中で、アタリ氏は一貫して、『命の経済』、すなわち医療、教育、持続可能エネルギー、水、リサイクル、良質な食料、再生型農業、デジタル研究、イノベーション、文化や民主主義といっ

た分野」の経済活動を拡大していくことの重要性を説かれました。そして、その実現のためには、技術革新そのものではなく、「何のために技術を使うのか」という視点が不可欠であることや、「スタートアップは地域に役立ち、同時に世界にも役立つ存在」であるべき、「企業の在り方は効率中心から目的志向の時代へと移行しており、『命の経済』へ向かっていくビジネスが、今後生き残りの重要な指標になる」ということを指摘されています。

私は、この考え方は愛知県、ひいては日本、そして世界の未来を考える上でも極めて重要であると感じています。

愛知県には、世界を代表する製造業と高度な技術力があります。近年では、自動車産業の電動化やデジタル化に加え、航空宇宙、ロボティクス、デジタル、新エネルギー、先端素材・技術など新たな成長分野への挑戦も進んでいます。

しかし、真のイノベーションは技術だけでは生まれません。

異なる文化や価値観が出会い、多様な人材が互いに刺激し合いながら新しい発想を生み出すこと。そして挑戦を称賛し、失敗を許容し、再挑戦を後押しする社会を築くこと。そのような環境があつて初めて、真の持続的なイノベーションが生まれます。

だからこそ愛知県は、国内外から多様な人材を呼び込み、女性や外国人、若者、高齢者を含む誰もが活躍できる環境づくりを進めています。また、世界各国の大学や支援機関とのネットワークを広げ、地域と世界をつなぐエコシステムの形成にも力を注いでいます。

私は、社会や経済の構造が大きく転換しようとしている現代において、未来を自ら創り出していく際、アタリ氏から提言のあつた「グローカル」や「命の経済」という視点を持つことで、未来が豊かななるものと信じています。

豊かな未来のために、スタートアップだけでなく、既存企業、大学、金融機関、行政、そして県民一人ひとりが、それぞれの立場から挑戦を続けていかなければなりません。社会課題を解決することと経済的な成長を実現することは、決して相反するものではありません。むしろ、その両立こそが次の時代の豊かさを生み出す源泉になると私は確信しています。

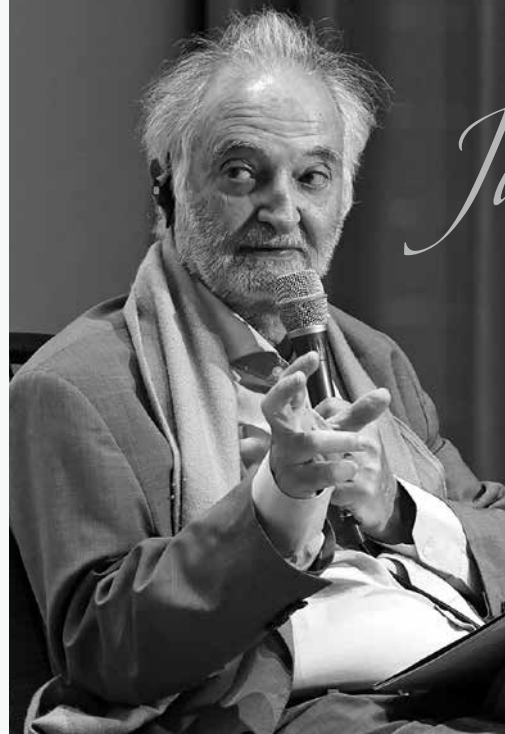
本冊子には、アタリ氏との対話を通じて得られた多くの示唆と、愛知県が目指す未来への方向性が詰まっています。ここでの議論が、この書籍を手にとっていただいた皆様、とりわけ若い世代の皆様にとって、新たな挑戦へのきっかけとなれば幸いです。

そうした挑戦を強力に後押ししながら、愛知県はこれからも、多様な人々がつながり、世界と共創しながら、新たな価値を生み出す地域であり続けるよう、前へ前へと進んでまいります。そして、「イノベーションとダイバーシティによる変革の加速」を通じて、持続可能で豊かな未来を切り拓いてまいります。

「命の経済」への転換には、新しいアイデアだけでなく、そのアイデアを具体的な解決策へとつなげ、広く社会に届ける力も求められます。産業の力がなければイノベーションはただの発明です。産業の力があって初めて、イノベーションは社会を変革できるのです。

私は長年、より良い世界の実現に資する経済を「命の経済」と呼んできました。これには、命を守り、生活の質を高め、より長く生きるためのあらゆる活動が含まれます。例えば、医療、教育、食料、安全な水、住居、移動、安全、文化、生物多様性、再生可能エネルギー、研究、高齢者介護、メンタルヘルス、そして、これらをより効率的で利用しやすいものにするあらゆる技術です。今後数十年の経済をめぐる大きな課題は、この「命の経済」よりも収益性が高く、魅力的で、革新的なものにすることです。現状では、世界のGDPに占める割合は「死の経済」の方が大きくなっています。

しかし、こうした危機が重なる中でも嘆いてばかりはいられません。衰退が避けられないと決まったわけではありません。私たちには、先人にはなかった豊富な知識、資本、技術、能力があり、それらを問題の解決に生かすことができます。真に問われているのは、より良い世界を築く手段があるかどうかではありません。その手段を使う道を、私たちが選ぶかどうかなのです。



写真提供：中日新聞社

1943年11月1日 旧仏領アルジェリア出身
1970年 フランス国立行政学院 (ENA) 卒業
1981年-1991年 ミッテラン仏大統領特別補佐官
1991年-1993年 欧州復興開発銀行初代総裁
2008年-2010年 サルコ政権下にて、フランス経済成長解放に関する超党派の政府委員会「アタリ委員会」を組織

1994年、大手企業のCEOや国際的な行政機関向けの一対一コンサルティング Attali & Associates を設立。国際規模の都市開発プロジェクトの発足に関わり、「命の経済」という概念を推進。自然環境・食料・社会問題・技術・都市計画・経済・金融・地政学・価値観といった未来における様々な側面を主な研究と執筆の分野としている。エッセイや小説等、90を超える著作は累計1千万部、22か国語に翻訳されている。仏経済紙 Les Echos と日本経済新聞でコラムニストとしても活動。趣味として世界中で交響楽団の演奏を指揮している。

愛知県イノベーション・アドバイザー
ジャック・アタリ

世 界は今、極めて先行き不透明な時代に突入しています。加速する気候変動。拡大する戦火。深刻化する格差。民主主義への圧力は強まり、AIはかつてないスピードで経済のあり方を変えつつあります。同時に多くの先進国で高齢化が進み、従来の社会モデルの維持が難しくなっています。人類は、その歴史を通じてこれまでに何度も深刻な危機に直面してきました。しかし、これほど多くの問題が同時進行する事態は、人類の歴史においても類例を見ないものです。

これこそ正に日本が圧倒的な強みを持つ分野です。ものづくりの文化、世界的企業、優れた科学力、高度なインフラ、技術の進歩を信頼性の高い製品へと結びつける並外れた力。こうした強みを併せ持つ国はごく限られています。その一方で、人口減、少子高齢化、財政逼迫、労働力不足、過疎化など、この先ほとんどの先進国を待ち受ける諸問題が日本でいち早く顕在化していることも事実です。

こうした厳しい環境はありますが、それを強みに変えることもできます。日本が今日生み出さなければならない解決策を、他の国々も明日には生み出す必要に迫られるからです。だからこそ日本は、自国の枠を越えて重要となる解決策を形にする、先駆的な役割を担うことができるのです。

働き手が減る中で、社会が繁栄を維持するにはどうすれば良いか。人口減少の影響を生産性の向上でどう補うのか。高齢者がより長く自立して暮らすにはどうすれば良いか。若者に、新しいものを生み出すための手段と意欲をどう与えるのか。

その答えはイノベーションの中にあります。イノベーションのためのイノベーションではありません。スタートアップがもてはやされているからといって、ただその数を増やせば良いわけで

もありません。テクノロジーは、決してそれ自体が良いものというわけではありません。AIは医療の進歩に貢献する一方、監視体制の強化に使われるおそれもあります。ロボティクスは人間を単純労働から解放しますが、富の集中を助長する手段にもなり得ます。バイオテクノロジーは病気の治療に役立つ反面、新たな脅威を生み出す危険もはらんでいます。イノベーションの真の価値は、それが何のために使われるかによって決まるのです。

日本が次なる産業変革の中心に「命の経済」を位置付けるべき理由はここにあります。そしてこの分野にこそ愛知県ならではの可能性が開かれているのです。

愛知県ほどの産業力、エンジニアリング文化、実行力を兼ね備えた地域はほとんどありません。トヨタとその系列サプライヤーは愛知県を世界有数の製造拠点へと押し上げました。しかし先人から受け継いだ強みを、この先も維持できるとは限りません。これまで地域を支えてきた産業を守ることに、今後数十年を費やすこともできるでしょう。しかし、そうした産業が蓄積してきた技能や資本、知識を生かして、次の時代を切り拓くこともできます。

愛知県は、後者の道を選ぶ上で、他にないほど恵まれた条件を備えています。そしてSTATION AIの立ち上げによって、その歩みはすでに始まっています。STATION AIの価値は支援するス

スタートアップの数だけで測るべきではありません。その真価はSTATION Aiが生み出す出会いにあります。起業家と大企業、技術者と出資者、大学と産業界、日本と海外の人材との出会いです。イノベーションは、ほとんどの場合、こうした人や組織の結びつきから生まれるのです。

スタートアップとの接点を持たない大企業はやがて自己変革を止めてしまいます。産業界と接点のないスタートアップはなかなか成長できません。研究者も、資金を調達できなければ、発明を製品化することができません。

目指すべきは、東京やシリコンバレー、深圳のモデルをそのまま取り入れることではありません。愛知県がすべきことは、日本の「ものづくり」の伝統——ものづくりにおける規律と卓越性——と、スタートアップ特有のスピード感、大胆さ、チャレンジ精神が融合した独自の強みをさらに磨き上げることです。こうした融合から、愛知県ならではのディープレック・イノベーションが生まれる可能性があります。それは、産業に根ざし、「命の経済」を志向するものです。その分野は、高齢化社会を支援するロボティクス、クリーンモビリティ、低炭素製造技術、ヘルステクノロジー、持続可能な食、インテリジェント・インフラ、エネルギー効率、先端材料など、多岐にわたります。

これらは決して小さな市場ではありません。それどころか、今世紀最大規模の市場になるでしょう。

高齢化は、医療、介護、ロボティクス、モビリティの分野で膨大なニーズを生み出します。気候変動に対応するにはエネルギー、インフラ、適応策への巨額投資が必要です。産業活動ではすべての工程でエネルギーと資源の節約が求められます。そして命を支える営みは、富を生み出す最大の源泉の一つとなるでしょう。

しかしこれは市場の力だけで実現できることはありません。

行政も大切な役割を担っています。成功する企業を選ぶのではなく、そうした企業が育つ土壌をつくること。大学と企業をつなぐこと。投資を呼び込むこと。海外の起業家を受け入れやすい環境を整えること。スタートアップの海外市場への進出を支援すること。大企業と中小企業の協働を促すこと。そして、教育と研究に投資することです。

政府の役割は行政を担うことだけではありません。まだ存在していないものに備えることも、ますます重要になっています。そして、どの地域も、未来への備えを単独で進めることはできません。

ん。だからこそ、産業拠点としての誇りを持つ愛知県は、その誇りにふさわしく、世界に開かれた地域である必要があります。起業家、研究者、投資家を呼び込むこと。愛知の若者を、世界で最も活力あるイノベーション・エコシステムへ送り出し、やがて地域に戻るよう促すこと。そして、他の地域や大学、企業との連携を築くことが必要です。

最終的に最も成功するイノベーションとは、普遍的なニーズに、地域に根差した答えを示せるものでしょう。食育すること、病気を治すこと、移動すること、学ぶこと、守ること、尊厳を保ちながら年齢を重ねること、人が暮らせる環境に住むこと、そして自由であり続けることを可能にするものです。

愛知県は、そうした答えを生み出す場所の一つになることができます。そのためには、地域の行政機関も将来を見据えてリスクを取る必要があります。地域の大企業は、起業家や研究者にこれまで以上に広く門戸を開くべきです。そして地域の投資家は、その可能性が十分に発揮されるまでに何年かかるかもしれないアイデアにも、資金を投じなければなりません。地域の大学は、学生に、就職を目指すだけでなく、自ら新たなものを生み出すよう促す必要があります。そして、地域のスタートアップは、自分たちが目指すのは単に大企業になることではなく、社会に役立つ企業になることだという点を忘れてはなりません。

愛知県が成功を収めれば、優れたイノベーション・エコシステムが生まれるだけではありません。「Aichi for Life (命輝く愛知)」という構想に「産業力、イノベーション、アントレプレナーシップが命を支える地域」という具体的な意味を与えることができます。そうすることで、愛知県の取組は地域を越えて広く反響を呼び、日本全国はもとより、世界中で同じような変化に直面する地域が行動を起こすきっかけになるでしょう。それは、衰退は避けられないものではなく、命を尊ぶ豊かな未来は今もなお実現できることを示すでもあります。そうした未来こそ、今、これまでに以上に求められているのです。

そのような未来は実現できます。そして、その未来を手にするのは、誰よりも早くその実現に向けて歩みを進める人々なのです。

目次

モノづくり王国・愛知を支える産業の力	2
ハードの強さにソフトの知性を加えて次の時代へ	3
STATION Aiがつなぐ「モノづくり」と「スタートアップ」	4
地球の未来を拓くテクノロジーの祭典	
TechGALA Japan	8
世界が注目する愛知モデル	9

挨拶	
大村秀章〈愛知県知事〉	10
ジャック・アタリ〈愛知県イノベーション・アドバイザー〉	14

ジャック・アタリ氏×大村秀章知事対談

第1回対談 ― 地域資源の活用とスタートアップの可能性	25
STATION Aiを中核としたイノベーション・エコシステムについて	26
「命の経済」とイノベーションの取組について	28
ディープレック・スタートアップの育成について	30
外国人起業家の集積について	32
女性起業家の育成について	32
「フレーム」愛知県の取組	35
学生向けの起業家育成プログラム	35
性起業家の育成について	32
今後のイノベーション・アドバイザーとしての活動について	33

第2回対談 ― 既存企業の変革とグローバル連携	37
-------------------------	----

グローバル化への対応について 38／デジタル化、AIの急速な普及について 39／気候変動、生物多様性について 42／文化芸術について 45／教育について 47／「フレーム」愛知県の取組】A-IDEA 50

第3回対談 ― 地域課題をグローバル課題として捉える視点	51
過去対談の振り返り	52
「命の経済」とスタートアップの使命	56
起業家を育てる社会とは	58
なぜ愛知からグローバルな挑戦が必要なのか	60
起業家のメッセージ	62
「コラム」愛知県の取組】愛知県による主なスタートアップ成長支援・オープンイノベーション推進の取組	65

第4回対談 ― 豊かで持続可能なあいちの実現に向けて	67
スタートアップの提言 ― 「地域資源の活用とスタートアップの可能性」	68
企業の変革とグローバル連携	70
行政への提言 ― 「地域課題をグローバル課題として捉える視点」	72
まとめの提言 ― 「豊かで持続可能なあいちの実現に向けて」	74

ジャック・アタリ氏×マーカス・ブラウクリ氏対談

ジャック・アタリが語る「テクノロジーと未来の秩序」	77
AIは分断を深めるのか、それとも協調を生み出すのか	78
技術は「何のために」使われるのか	

経済と社会の未来を形作るAI 79／技術の時代に進行する「世界秩序の断絶」 81／日本、そして愛知が果たすべき役割 83／AI For What? ―日本が示す、目的あるAIのかたち 85／知事挨拶 86

Aichi-Startup 戦略に係る主要事業	89
-------------------------------	----

―― 寄稿 ―― 杉山 直〈名古屋大学総長〉	90
------------------------------	----

愛知県の取組	94
--------------	----

① 愛知県の経済状況	94
② 愛知県の産業の特徴	95
③ 社会経済環境の大きな変化	96
④ Aichi-Startup 戦略	97
⑤ STATION AI プロジェクト	98
⑥ 海外連携	99

―― 付録 ―― 挨拶 ―― ジャック・アタリ（英語原文）	103
-------------------------------------	-----

※数字及び肩書等は対談当時のものであり、現在のものとは異なる可能性があります。